

学院

キャンパスだより

第2号



八戸大学・八戸短期大学図書館内

■八戸短期大学附属幼稚園 来春開園

- 八戸大学平成18年度 後援会・父母の会・同窓会の役員会開催
- 八戸大学平成18年度「あすなろマスターカレッジ」スタート
- 八戸大学 キャンパスから始まる国際交流
- 八戸短期大学 幼児保育学科1・2年生合同で砂浜彫刻
- 光星学院高校創立50周年記念野球親善試合
- 野辺地西高校 野辺地町の祇園祭りで「秀作賞」を受賞
- 専攻科 介護福祉科「私を成長させた施設実習」
- 野辺地工学専門学校 「交通安全教室」の講師に先輩来校
- 聖アンナ幼稚園 八戸初の「ストリートウエディングに参加」
- 八戸大学サッカー部 天皇杯3年連続6度目出場

平成19年4月しののめ幼稚園・白銀幼稚園が統合して新しくなります



(仮称)

八戸短期大学附属幼稚園

(名称変更予定)

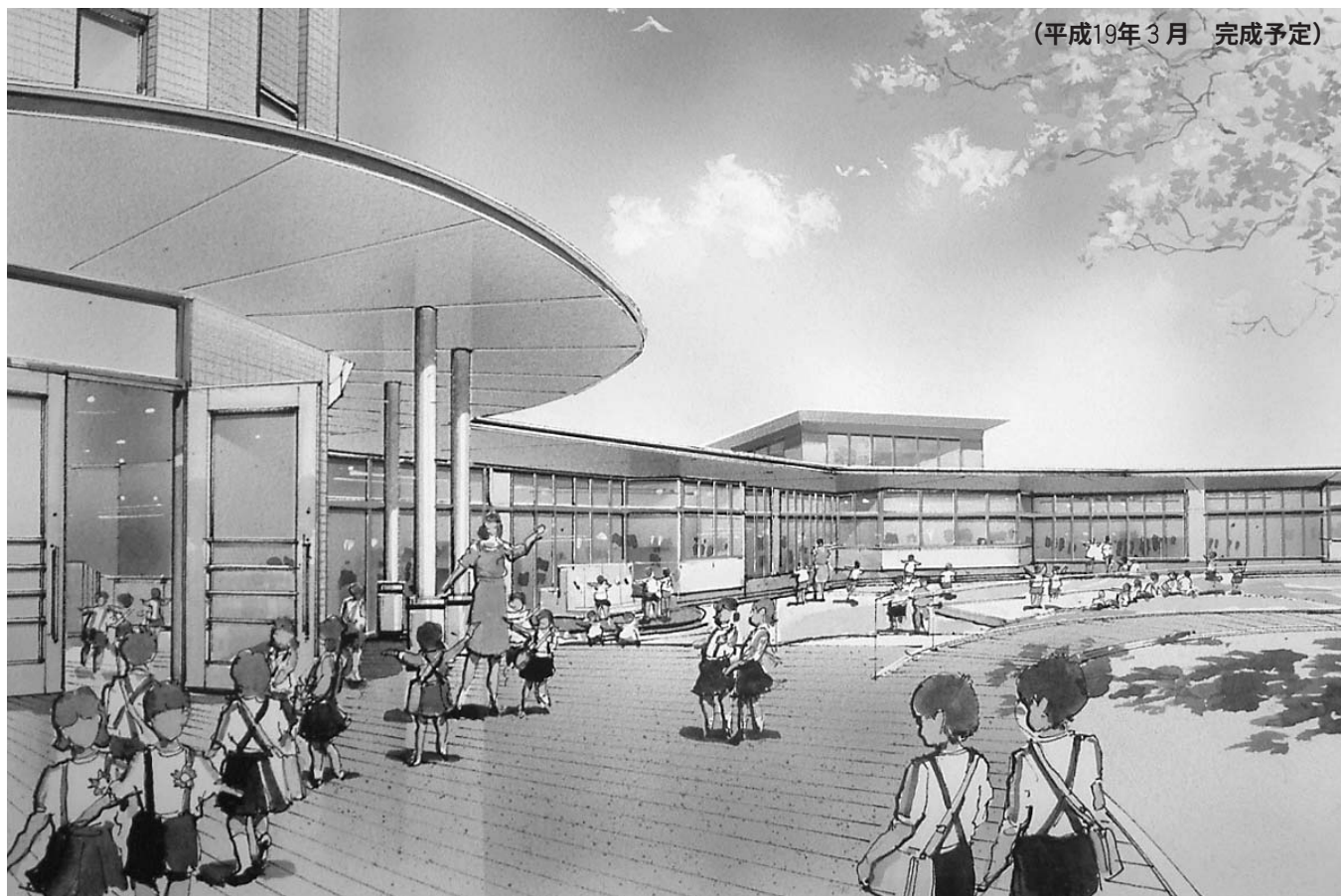


— 明るく元気な子 心の豊かな子 自分の考えを持てる子 —

平成19年4月、湊高台キャンパスに八戸短期大学附属幼稚園（仮称）は、充実した施設設備と教育環境を提供します。また、短大・大学と連携し、地域のニーズに合わせた幼児教育を目指し、預かり保育、子育て支援、就労支援、保護者を対象とした子育て支援講座を実施します。



(平成19年3月 完成予定)



★教育活動

自然体験活動・リトミック・体操・英語・造形絵画指導・子ども赤十字他
八戸短大教授陣等による指導があり、楽しい行事もたくさんあります。

★各種講座開設

教育相談、カウンセリング、パソコン講座等保護者講座を開設します。
(幼稚園・短大・大学教授陣等により実施)

★教育環境

IT教育環境・保育観察室・幼児教育センター・A E D（自動体外式除細動器）
冷暖房・防犯セキュリティー完備・完全給食・バス送迎あり

★課外教室

スイミング教室・音楽教室・スポーツ教室他（実費徴収）

★預かり保育（働くお母さんたちをバックアップします。）

諸 経 費

保 育 料	19,000円
教 育 費	4,750円
施設充実費	2,000円
給 食 費	3,300円
バス維持費	3,500円

《問い合わせ》

しののめ幼稚園 ☎ 0178-34-5765
白 銀 幼 稚 園 ☎ 0178-33-7150

朝の預かり	幼稚園教育	預かり保育	預かり保育料
7:30～	10:00～14:00	14:00～19:00	平日:300円 土曜日:一日500円 月決め:2,000円

※土曜日・長期休業中の預かり、未就園児教室・学童保育を実施します。

※バス送迎予定時刻（朝:8:00発 帰:14:05発 預かりバス16:05発）

後援会・父母の会・同窓会 平成18年度役員会開催される

八戸大学の教育研究活動を支援する目的で設立されている後援会（卒業生の父母が会員）・父母の会（在学生の父母が会員）・同窓会（卒業生が会員）の役員会が6月から7月にかけて開催され、平成18年度の事業や運営方針が決まった。

○八戸大学後援会

八戸大学後援会（山田政信会長）の理事会・三役会は平成18年7月11日、八戸大学・八戸短期大学総合研究所市内オフィスで開催された。会議では昨年度の予算・決算・監査報告、18年度の事業計画・予算案が審議され原案通り承認された。

併せて「後援会をより強固な組織にしたい」ということで昨年来審議されてきた後援会組織の再編案について原案通り承認された。今後は父母の会と同窓会役員と協議を重ね、3団体が一体となって大学と連携をとりながら会務運営にあたっていくこととなる。

○八戸大学父母の会

八戸大学父母の会（夏堀文孝会長）の役員会は6月6日、八戸第1ワシントンホテルで開催された。会議では、昨年度の予算・決算・監査報告、18年度の事業計画・予算案が審議され原案通り承認された。

会議の最後に平成18年度の役員人事について審議がなされ、会長に夏堀文孝氏（4年生）が選出された。会議終了後、前会長の左舘真済氏等父母の会の卒業役員に対し感謝状が贈呈された。

○八戸大学同窓会

八戸大学同窓会（柳町仁会長）の幹事会・評議員会は6月16日ホテルJALシティ八戸で開催された。会議では、昨年度の予算・決算・監査報告、18年度の事業計画・予算案が審議され原案通り承認された。

引き続き役員改選が行われ、退任した役員の後任として副会長には3回生の堤静子さん、5回生の高橋昌樹さん（幹事長兼務）が選出された。

大学からの出席者である内海学長補佐と熊谷学務課長から大学の近況報告がなされ、有意義な会となった。



キャリアデザイン支援に向けて

①資格取得支援について

学部・学科の枠に捉われず、学生の就職活動の幅を広げるとともにやりがいのある仕事が見つけれられるよう、各種講座の開講や資格取得の広報活動など積極的にすすめています。

講座には年間を通して開講しているものや長期休業期間、課外活動の時間などを利用して開講しているものなどがあります。講座の種類として、公務員試験対策講座をはじめホームヘルパー講座、メディカルクラーク講座、食生活アドバイザー検定講座、TOEIC、日商簿記、シスアド検定など、学生の希望や学習意欲、資格取得意欲に連動できるよう配慮しています。勿論、これらの講座には多くの学生が参加・受験しておりますが、今後一層学生の資格取得意欲の啓発に努め、学生が資格取得により自分に自信を持ち、就職活動を展開できるよう指導していく予定です。

②就労意欲啓発について



シルバーリハビリテーション協会 田中理事長の講演会

最近、学生の就労意欲の低下が全国的に問題になっています。そこで、仕事や職種に対する理解が深まれば関心が湧き、積極的に活動するのではないかと考え、今年度は

従来の就職活動のノウハウをただ詰め込むだけではなく、いろいろな業界の方々に大学に招き、実際の仕事内容や楽しさ、やりがいなどを見つける方法など、直接「生の声」を聞かせ学生に就労意欲をもたせる工夫を施しています。過日、6月29日シルバーリハビリテーション協会の理事長田中信幸氏を講師に招き、「社会人になっても学ぶことが重要」の演題で講演会を実施しました。このような講演会や就職ガイダンスを通して学生が自ら個性の伸長を図り、就職活動を円滑に遂行することを期待しています。今後講演会や就職ガイダンスなどの内容充実を図って行く予定です。

③学内企業説明会について

首都圏を中心に景気回復の傾向があり、採用数が増えてきていますが、東北地区特に青森県に関しては、微増であり、まだまだ厳しい状況は続いています。

採用スケジュールに関しても首都圏の企業は早期に行われる傾向があります。このため、志望業種の定まらない学生や経済的出費の関係から参加もままならない状態の学生もおります。そこで、企業説明会自体を学内で開催することでこのような事情を緩和できないか？と考え、昨年度から学内で企業説明会を開催するよう多数の企業にお願いしてきました。学生には経費

節約につながり、学内で行うことで自分本来の姿を出せるなど、中身の濃い話が聞けると好評のようです。一方、企業の人事担当者も関心のある学生や担当者に直接説明ができるとあって同様に好評のようです。学内説明会は「Face to Face」で話ができより良い人間関係が構築できる利点もあり、今後も多くの企業に説明会の開催をお願いする予定でいます。

④学外イベントへの教職員の参加について

今年度も企業説明会など各種イベントがさまざまな場所等で開催され、学生はもとより、教職員も参加して直接企業の人事担当者からさまざまな説明を受けております。過日、7月27日に青森市のアピオあおもりで県内企業を中心にした説明会が開催され、大学生6名、短大生12名、教職員2名が参加をしました。イベントへの積極的な参加によって、学生には「生の声」を聞かせ現状を認識させることの大切さを痛感しています。更に、教職員には人事担当者との意見交換により現状を把握し、学生に的確な情報を提供できる絶好の場所であると考えており、タイムリーな就職指導が実現しています。

あすなろマスターカレッジ

本講座を主催する青森県教育委員会の開催趣旨には「近年、学習の成果を生かした社会参加活動の場や機会の充実が重要視されるようになり、既存の学習講座を受講する県民からは、高度な学習機会を望む声が高まってきた。そこで、県民の高度な学習要求に応えるとともに、学習者の社会参加活動を促進するため、大学や博物館、体育施設、青少年教育施設等との連携により専門的・実務的能力の向上に資する学習機会を設け、地域において学習成果を生かした社会参加活動を主体的に推進できる人材を育成する。」とある。事業のポイントとして「①実践体験学習を取り入れたカリキュラム、②学習内容と修了後に活動する場や機会の体系化、③専門性を高めるため、大学等を含む他機関との連携した体系的・継続的な学習機会を構築。」の3点があげられている。

従来の青森県民カレッジの大学院版として位置づけられているこの「あすなろマスターカレッジ」は、受講者を少人数に限定し、2年間の継続した学習を通じて即戦力となる人材養成を進めており、「人文科学」「健康福祉」「自然科学」の3コースが設けられている。平成18年度の本学は、健康福祉コース（2年目）及び人文科学コース（1年目）への協力を要請されており、特に健康福祉コースでは、昨年に引き続き八戸市中央公民館を主会場に7月から約半年間の講座の大部分を担っている。講師陣には人間健康学部の教員を中心にビジネス学部、八戸短期大学幼児保育学科の教員を派遣しており、健康福祉に関する専門的な講義を

展開している。一方、開設1年目の人文科学コースでは、ビジネス学部の2名の教員を派遣し、歴史とコミュニティビジネスに関する講義を担当している。

青森・八戸・弘前の3市を会場に平成16年度からスタートした本事業は、来年の平成19年度で計画全体が終了することとなるが、受講生に対しては講座修了後の積極的な活動が期待されている。

キャンパスから始まる国際交流



現在八戸大学には研究生も含め4人の外国人留学生がいます。出身地域は、韓国・アメリカ・タイ・ロシアとさまざまです。彼らは何を留学で学ぼうとし、また彼らを迎えた八戸大学の学生は、留学生とどのように交流し、何を

得ようとしているのでしょうか。

今年度初めて留学生交流会（ウェルカムパーティー）を開催「キャンパスから始まる国際交流」をテーマに、授業以外での留学生の交流の場を持つことを目的に行われました。軽音楽部による演奏のオープニングに始まり、お互いの国の紹介や日本で学びたいこと、将来について語り合いました。留学生は「最初は不安だったが、話してみると文化や言葉の違いはあっても学生同士、人間同士変わらない」と語り、また学生は「一緒に話をしているうちに留学生であることは忘れて、自分にとって外国が身近なものになった」と交流会を振り返っています。

この交流会では、自分が伝えたいことを伝え、相手の言いたいことを感じとることができたのではないかと思います。そして、新しいことを見つけたり、それまで知らなかったことを学ぶ貴重な機会となりました。会話を通して、トランプ手品・コント・ギター演奏と歌などお互いの趣味を紹介しながら終始和やかな雰囲気では進みました。学生同士異なる部分を通じて理解するのではなく、自分と同じように考え、悩んだりする仲間として身近な存在になったと学生は言います。

10年前には5万人程度だった外国人留学生が、1998年を境に急激に増加し現在では倍以上に達しています。八戸大学では外国人留学生と八戸大学の学生の交流を目的としたサークルも立ち上げ、時代のキーワードである「国際化」「グローバル化」が、学生同士の中で着実に進んでいます。

「八戸大学」 OB&OG訪問 part2

Q：多彩な肩書きと経歴をお持ちですね。

A：八戸大を卒業後八戸大事務局に勤務し、その後青森公立大大学院へ入学し公共経済、地域経済を中心に経営経済について学びました。修士課程修了後は青森公立大学地域研究センターに勤務し、過疎地の経済活性化のための基礎調査等実践的な調査手法の開発と応用に携わりました。

その後マーケティング会社を設立しました。これは青森県にはせっかく良い素材や優れた製品があるのに、他県に付加価値創造の点で遅れをとっているのは、マーケティング機能が弱いからではないだろうかと考え、また青森県にはマーケティング専門のリサーチ会社がないために各種調査が県外、とりわけ首都圏のリサーチ会社に流出しているという現状もあって立ち上げた会社です。今年で7年目となり、ひたすら青森にこだわって仕事をしています。

青森にこだわるといえば、地域で市民活動を行う個人や団体を対象に、運営を担う人材育成やネットワーク、パートナーシップの構築に関する事業を行うなど非営利の市民活動団体の支援をしたり、まちづくりや活性化に関するNPO活動に取り組んでいます。

また、同じく、青森にこだわり「人」と「人」のコミュニケーションを礎とした経営コンサルティング会社も昨年設立しました。税理士や社会保険労務士などで設立した企業組合です。

ただ、昨年父が他界し、家業である電気工事会社の代表取締役となったことから、時間のやりくりが非常に厳しい状況となりました。しかし、変わらず元気に過ごせていますので、きっとこれからも何とかなるなと思っています。

Q：八甲田丸を管理するきっかけは？

A：初めは青森港関係の仕事で一緒にメンバーだったのですが、みんな青森に想いのある人が多く、仕事の合間に色々と思いが飛び交い、これってNPOとして活動してみると良いのでは？ということが、現在、八甲田丸の管理運営を行っている昨年9月に設立したばかりの「NPO法人あおもりみなとクラブ」の始まりです。このNPOを設立しようかという話が出たとき、ちょうど私がNPO設立支援組織に関わっていたこともあって、設立のお手伝いをさせていた



青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸にて 堤 静子さん(3回生)

できました。あおもりみなとクラブは、「みなとの賑わいの創造」をミッションに、地域の発展を支えてきた青森港及び青森市の歴史・文化について考え、伝承し、またこれらを広く啓発していくとともに、港の活性化に関する整備・運営についての様々な提案を行うことを目的として設立したNPO法人です。

昨年、平成18年4月より青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸で指定管理者制度が導入されることになり、ぜひとも自分たちで八甲田丸の管理運営事業を行い、港の活性化、利活用に関する総合的な取り組みを進め、地域住民に愛されるみなとまちづくりに貢献したいと考え応募しました。応募の申請は大変でしたが、指定管理者として選ばれ、まずは指定期間3年間精一杯頑張りたいと考えています。まだ管理運営から3ヶ月しか経過おりませんが、昨年と比較して入場者数も増加しており、今後様々なイベントも予定していますので、ぜひ応援してください。

Q：仕事柄、八戸大の学生と関わることもあると聞きましたが、今の学生の印象は？

A：昨年、生活交通調査の仕事で八戸大学の野球部の学生さんにお世話になりました。雪が降る寒い日だったにもかかわらず、早朝から夜遅くまでバスに乗り降りしたり、JR駅で調査したりと、非常に辛く厳しいアルバイトだったのですが、全員責任持ってきちんと最後まで仕事をしてくれまして、お世辞抜きで本当に感心してしまいました。また、そんな頼もしい学生が後輩であることをとても嬉しく思いました。

Q：最後に、教職員や在学生にメッセージをどうぞ

A：卒業して20年近くとなり、知っている教職員もだんだん少なくなっているのですが、先日久しぶりの同窓会では、懐かしい再会でありながらも、全く時間を感じさせないというか、ずっと昔と同様に盛り上がってしまったのはすごいなぁと驚きました。うまく言えませんが、仕事など一切関係ない何でもない自分を知っている人がいてくれるというのはとても心強いというか、ほっとできます。やはり、人との縁、付き合いは何よりの宝物となるので、在学生の皆さんにもたくさんの人との交流、出会いを大切にしていってほしいと思います。

プロフィール

青森市出身、青森東高校－八戸大学商学部卒。卒業後八戸大学事務局勤務を経て青森公立大学大学院に進学。現在、有限会社オフィスエスティ代表取締役、企業組合すこやか青森総合研究所理事長、有限会社竹谷電工代表取締役、NPO法人NPO推進青森会議・NPO法人あおもりみなとクラブの役員を務めている。

笑顔で「あいした (挨拶)」

このほど八戸大学の学生が南部地方にこだわり地元
に密着した体験プロジェクトを繰り広げる情報・バ
ラエティ番組「GOTSURI! (ごっすり)」に出演。地
元南部の元気を発信源として八戸大学メンバーが大活
躍した。

「I♡8DAI」をプリントしたおそろいのTシャ
ツを胸に一致団結。八戸大学のPRと自然豊かな美保
野パークゴルフの紹介に協力しながら、今どきの若者
の様子を披露した。

最初は緊張気味のメンバーも八戸市出身の俳優「十
日市秀悦氏」の人間味豊かな十日市氏ならではのホロ
リとさせる場面(「イサバのカッチャ」姿で登場)に
自然に呑み込まれていった。自らが楽しむことで言葉
よりもみんなの表情・笑顔で見ていく視聴者も“ごっ
すり”できたのでは…。

この収録で確かな満足感と一つのことを仲間と一緒
に作り出した達成感に、メンバー一人ひとりがますます
大きく見えた瞬間でもあった。

これから、学内の活動に留まらず、いろいろな体験
を通して楽しむ側から楽しませる側まで、自分自身の
幅も広がったことだろう。

そして、どんどん新しいことにチャレンジしてほし
い。そこからまた新しいユニークな発想が生まれる。
好きでするから楽しい、夢中になるからうまくなる、



達成感・充実感が得
られるからまた次の
活動意欲が沸いてく
る。これこそ実りの
ある学生生活となる
ことを信じている。

※「GOTSURI!」とは、青森県南部地方の方言で
「にんまりと喜ぶ様子」を表す言葉。

キャンパスPCヘルプデスクセンター

八戸大学・八戸短期大学総合研究所4Fに「キャン
パスPCヘルプデスクセンター」が設置されている。
「キャンパスPCヘルプデスクセンター」(以下、「セ
ンター」という)とは、八戸大学・八戸短期大学総合
研究所からの受託事業の一つで、キャンパス内に無線
アクセスポイントを設置したことにより、キャンパス
内のどこからでもインターネットやメールを使用でき
る環境を整備した。そのことにより生じるノートPC
の故障といったアクシデントに対応するために設置さ
れたものである。

「センター」のメンバーはビジネス学部の学生を中
心に8名で構成されており、主な事業内容は八戸大学
キャンパスPC購入者を対象に、操作の仕方等のサ

ポートや毎日交代制で
「センター」に常駐し、
マウスの不具合、無線L
ANの不調、ディスプレイ
の割れ等で毎週訪れる
キャンパスPC購入者た
ちの対応に取り組んでい



る。また、八戸大学同窓会のホームページ制作・更新
にも携わっている。学生たちは「いろいろ学べるから
今後に活かしたい」「自分の技術を磨くことができ
る」と抱負を語り、毎週金曜日にはメンバー全員が集
まりミーティングを行っている。

昨年「センター」のメンバーだった卒業生がIT関
連の企業に就職したこともあり、現在、在籍している
学生もIT関連企業への就職を目指したい、と意気盛
んだ。

初級システムアドミニストレータ合格体験記

現代ビジネス学科2年 吉田 真澄美

コンピュータ関係などの情報処理の仕事がしたいと
思い、初級システムアドミニストレータ試験に挑戦し
た。この資格は国家資格であり、取得できれば就職に
も有利になると思い受験したのだ。

試験問題は情報に関することが幅広く出題される。
長期間の集中した勉強が必要になる。冬期休暇の期間
は毎日講習を受講するため出校。先生の指導を受けた。
最初は基礎知識を集中的に勉強し、最後の方では過去
の問題を繰り返し解いた。

1冊のテキストを終わらせるのに1ヶ月以上掛かっ
た。他にも勉強の仕方や役立つテキストやホームペ
ージ等も参考にすると指導していただいた。特に、
過去の問題については、答えが暗記できるくらい繰り
返し解いたのが、記憶に残っている。

試験の一週間前には、本学の図書館に行き集中的に
勉強をした。

図書館には資格関係の参考文献が備わっており、勉強
するのに最適であった。また、静かな環境で集中して
勉強することができた。

そして4月。試験を受けに青森市まで行った。会場
は広く、大人から学生服をきた人まで様々で、試験時
間が近づくにつれとても緊張が高まった。

試験は午前の部と午後の部があり、午前の部では基
礎問題が試され、午後の部では応用問題が出された。
制限時間は両方各2時間30分。あいだに休みを入れて
丸1日掛けて試験が実施される。すべて選択問題だが、
悩まされる問題が多かったのが大変。特に午後の部の
文章問題は、問題文が長く読むだけでも混乱する。そ
こから鍵を見つけなければならぬのでこれが大変だ
った。時間ぎりぎりまで問題と格闘であった。

試験が終わった次の日、解答が公式ホームページで
発表された。持ち帰った問題にメモした答えと比べな

がら採点していると、やはり午後の問題で不安だった所が連続で間違っていて焦ってしまう。

それでもようやく、全体的に合格点に達していたので安心した。そして試験から1ヶ月して合格発表をホームページで確認してみると、自分の受験番号があって本当に嬉しかった。

この資格は私一人では取得出来なかったと思う。先生のご指導によって、試験の申し込み方法や勉強の仕方など迷うことなく進めることができたのがよかったと思う。今では就職も内定し、更に上位の資格を取得しようと思っている。お世話いただいた教職員の皆様本当にありがとうございました。

「八戸短期大学 現代ビジネス学科 平成十八年度 就職出陣式」開催される

八戸短期大学現代ビジネス学科では、4月25日(火)午後2時から、「就職指導」の時間を使って、「平成18年度 就職出陣式」を行った。

出陣式は、内海隆学長補佐の「激励の言葉」の後、就職支援課中村係長による「平成19年春、採用状況分析」の説明を受けた。その後、学生代表木村香織さんの「決意表明」があり、最後に褒主佳佑君による各学生の積極的な就職活動に向けた、気合いを高めるための「喊声」をあげ、早期に就職内定するようにと祈りを込め、学生一人ひとりに「合格饅頭」を手渡して式を終了した。

日本経済は、バブル崩壊後の景気が徐々に回復しつつあるとはいえ、地方はまだ雇用情勢が厳しく、学生一人ひとりが今回の「出陣式」で見せた気合いを持って就職活動に取り組み、希望する会社の内定を勝ち取るよう頑張ってもらいたいものである。

八戸短期大学 幼児保育学科 砂浜彫刻

7月5日(水)午前11時より大久喜海岸で、恒例の砂浜彫刻が実施された。太平洋を望む大久喜海岸は八戸短期大学から最も近い海岸。今年は幼児保育学科1、2年生合同で行われたので、総勢約240名の学生が5台のスクールバスに分乗し現地へと向かった。

彫刻作成はゼミナール単位(約18名)で製作し事前に作成された下絵を見ながら1、2年生が協力しながら作品を作った。少し肌寒い天候でしたが、開会式のあとにラジオ体操で体をほぐしてから、製作に取り掛



かった。各ゼミナールの学生は配布された道具(バケツ4個、スコップ4個、シャベル3個)を手にし、あらかじめ区分けされた自分達の製作場所へと駆け出した。

カモメがたくさん飛び交う中、砂をスコップ(工事現場で使う大きな角スコップ)で盛る者、波打ち際からバケツで海水を汲む者、ペタペタと手で砂を立体的に押し固める者、園芸用シャベルで細工をする者、昆布や貝殻などを拾ってくる者などみんな得手分けをして製作。はじめは大きな砂山を作り、海水をどんどん



かけて固め、形を整える。ワイワイと相談しながら製作するのはとても楽しい時間のものであった。

2時間もすると、猫バスやトトロ、アンパンマンなどおなじみの作品、サックスや似顔絵などゼミナールの先生に関係する作品、アイスクリームやドーナツなど美味しそうな作品、ハートマークがたくさんあるような作品など各ゼミナールの砂の彫刻が完成した。今年の作品は例年に比べ大型でダイナミックな作品が多いのが特徴。1年生と2年生が協力して作り上げた彫刻が大久喜海岸に13作品が並んだ様子は壮観であった。潮風の中、波の音を聞きながらしばらくお互いの作品を鑑賞しあい、なかには製作した大きな彫刻にみんなでまたがって写真をとったゼミもあった。

短大に戻る前に、来た時と同じ海浜に戻すために、せっかく作った作品を号令とともに壊し始めた。あっという間にもとの平らな海岸になってしまったが、思い出はいつまでも心に残ることでしょう。最後に海岸清掃を行い、短大へ向かうバスに乗り込み大久喜海岸をあとにした。

「学生達の活躍に敬服！」

ライフデザイン学科でレクリエーションを履修している学生は地域のレクリエーション経営を学ぶため、7月2日(月)吹上公民館会場の「吹上こども会七夕まつり」に参加した。今回参加した学生は、5月21日(日)に行われた「家族ふれあいウォークラリー大会」に続き2回目の体験学習であった。

当日は午前9時から午後2時まで、焼き鳥を千本焼き、その他ヨーヨーの空気詰めと食パンの耳のから揚げ菓子作り各300個、七夕の短冊づくり、くじ引き、ドリンク、会場および各コーナーの案内看板づくり等を約5時間にわたり準備作業を行った。焼き鳥係の男子3人は「熱いし、煙は出るし、千本を焼くのが大変だった。でもうまく焼けたか味見をしたり、こども達が競って交換チケットと交換していく姿をみたら疲れも忘れて良い体験をしたと思いました」と語っていた。

開会時刻の午後2時には、約270人のこども達が集まった。全員参加の楽しいゲームにこども達の大きな歓声があがった。

ゲームが終わり、いよいよ学生達それぞれの第2の体験学習が始まった。こども達が、自分の希望するコースめがけて目つきを変えて移動し始めた。みるみるうちに準備された物品があらかじめ渡されてあったチケットと交換されていった。会場は凄まじい熱気に包まれ、学生達は必死にチケットと物品の交換作業に追われた。「七夕まつり」は、大盛況・大成功のうちに終了した。



「七夕まつり」終了後、こども会育成会の人達との反省会が行われた。学生達の活躍に対し感謝の言葉があった。学生達は満面に笑みを浮かべながら元気に帰宅した。

光星学院高等学校 創立50周年記念 野球親善試合

一昨年、昨年と夏の甲子園大会を連覇した駒澤大学付属苫小牧高校と、春の選抜大会優勝の横浜高校、全国の高校球児の目標となっている両校を迎えて親善試合が6月16日(土)17日(日)の2日間に渡って行われた。



駒澤大学付属苫小牧高校は前日の荒れ模様の天候により飛行機が着陸できず青森空港から引き返した。当日も雨のためなかなか離陸できず、遅れて到着するハプニングがあった。

1日目、朝から小雨で濃霧も発生し試合ができるか危ぶまれた。徐々に回復し、10時よりオープニングセレモニーを行った。山西幸子校長の挨拶の後、応援団・チアリーダー部員が歓迎の演技を披露した。

試合結果は、

1日目 第1試合 光星5-11 横浜

第2試合 光星3-4 駒澤大学付属苫小牧

2日目、全国の高校野球ファン注目の横浜対駒澤大学付属苫小牧の試合は第一試合に行われ、横浜3-2駒澤大学付属苫小牧、選抜の覇者横浜が接戦を制した。



第2試合は、光星1-6横浜。

全国トップレベルのチームとの試合は本校野球部、また八戸の少年野球の選手達に大きな刺激になったものと思われる。

会場となった八戸大学野球場には、1日目3,500人、2日目6,000人の観客が訪れ、両日とも大盛況であった。

創立50周年記念事業にふさわしい素晴らしいイベントを職員の一致協力により、成功裏に終了することができた。本校にとって文字通り記念すべき有意義な2日間であった。

工業技術科 ワールド・エコノ・ムーブ 「全国の頂点が見えた！」

「ワールド・エコノ・ムーブ」とは、大会本部から支給された手のひらサイズのバッテリー1回の充電で何km走行できるかを競う大会です。しかも2時間という時間制限があります。全国の一般、企業、大学、専門学校・高校から毎回総数100台前後参加出場しており、世界的にも行われている大きな大会です。

低公害で環境にやさしく、省エネルギーで走行でき



るマシン作りに関心を持つことで、生徒たちは充実した高校生活の一環を送ってもらえることができれば幸いです。考え、我が校も1998年(4回目)からこの「ワールド・エコノ・ムーブ」大会に参加しています。

出場回数を重ねる毎にマシン性能向上を目指し取り組んできました。そして今年2006年大会。本気で優勝を狙えるところまで上り詰めることができました。今回、テスト走行と調整の繰り返しで、微妙な調整作業が多く苦労しましたが、その分、今までにない万全の体制で大会に臨むことができました。結果、公式予選で走行距離67.5km、順位7位と、我が校過去最高の記録を出すことができました。しかも今大会の優勝記録に近く、我が校マシンも全国のトップレベルに達したと言えます。そして、表彰台・優勝は夢ではなくなり、目前となったのです。マシン性能だけでなく、ドライバーテクニックにも磨きをかけ、今後も優勝を信じて一層取り組んで行きたいと思っています。



「光る東北大会での活躍」

平成18年6月に行われた東北大会には本校より、団体戦はレスリング、ソフトテニス女子、空手道男子、硬式野球が出場。個人戦には陸上競技、空手道女子、柔道女子、柔道男子。以上6種目、男女合わせて75名の選手が出場した。

団体戦は、ソフトテニス部が東北大会4連覇、硬式野球部が春の東北大会初優勝、レスリング部が準優勝と全体的に素晴らしい成績であった。

また個人戦では、レスリング50kg級で山内拓真選手（2年、横内中出身）、55kg級で小田裕之選手（3年、三重久居中出身）が優勝。ソフトテニスの佐藤仁美選手（3年、山形鶴岡第四中出身）・太田奈々美選手（2年、浪岡中出身）組が優勝。陸上競技は入江亮選手（2年、市川中出身）が200mで入賞を果たし、陸上競技部として初めてのインターハイ出場権を獲得した。

出場した各部において、団体・個人ともにほとんどが初戦を勝ち進み、8月の全国高校総体に向けて期待の持てる大会となった。

さて、本校は「伸ばそう個性、かなえよう君の夢」をスローガンに掲げ、スポーツの得意なことも個性の一つととらえ、学業と同じように部活動にも力を入れて取り組んできた。

部活動を通じての教育と人材の育成は本校の使命の一つと位置づけ、今後も学校全体で取り組んでいきたい。

「東北大会4連覇達成！」 女子ソフトテニス部



第49回東北高校ソフトテニス選手権大会が6月17日、18日の日程で山形県酒田市光ヶ丘テニスコートにおいて行われた。この大会には各県を勝ち抜いた16校が出場した。開会式で3年連続優勝の表彰を受け、「よく3年も勝てた。でも今年は難しいだろう。」と覚悟を決めて臨んだ大会だった。事実、県予選ではあと1本で負けのところまで追い込まれる戦いを強いられ、精神的に弱いチームであった。また、宮城県の常磐木学園高校は全国優勝も狙える力のあるチームで本校が勝つことは難しいと思っていた。

我が校チームは前年度の優勝と全国選抜大会のシード点で第1シードAブロックに入った。初戦の相手は、宮城県第三代表の聖和学園高校。初戦で選手も固くなったのか2-1と苦戦した。その後苦戦しながらも福島県の第二代表、秋田県の第二代表に勝ち、決勝トーナメントに進出することができた。準決勝の相手は山形県第一代表の山形城北高校。強豪校ではあったが、向かっていく気持ちで臨み完璧な試合内容で勝利した。この勝ち方で流れを掴むことが出来た。決勝の相手は予想通り常磐木学園高校。力の差というより、勢いの差がでた結果となった。小関香奈選手（2年、山形鶴岡第三中出身）・戸川みほ選手（3年、久慈中出身）組が相手大将に4-1と快勝。佐藤仁美選手（3年、山形鶴岡第四中出身）・太田奈々美選手（2年、浪岡中出身）組も4-0と快勝し4年連続優勝を達成することが出来た。

不思議なもので、力が無くても勝てるし力があっても負ける、勝負というものは判らないものである。ただ言えることは、努力したから勝てたのではなく、努力していたからこそ勝つチャンスがあったのだと思っている。

アクティブスクール 「昨年より100名多い参加者」

本校では「アクティブスクール」と銘打って、8月1日(火)2日(水)の二日間、体験学習が実施されました。これは中学3年生の生徒さんに光星学院高等学校の特色ある授業を体験していただき、進路決定の参考となるよう毎年実施しているものです。

今年は4科7コースで、昨年より100名多い950名の参加者があり、本校への関心の高さが伺われました。普通科では国語・数学の高校入門授業、専門学科ではゲームのプログラミング、車の仕組み、溶接、FAロボット、住宅の設計、離乳食作り、車椅子体験、介護体験など各コースでいろいろな学習をして午前中を過ごしました。中学生の皆さんは緊張しながらも真剣に取り組んでいました。そして我が校ならではの興味ある授業体験ができたことで充実した一日を過ごせたようです。

第2回アクティブスクール（体験学習）は10月14日(土)に部活動見学体験も併せて実施の予定です。



野辺地西高校空手道部、栄光の軌跡

8月7日から9日まで開催された大阪インターハイ（全国高等学校総合体育大会）の空手道競技に出場した本校空手道部女子は、過去最高の成績を収めました。個人組手に出場した笹 明日香選手（普通科3年、津軽中出身）は準決勝まで進出し、優勝した選手に惜しくも負けたものの堂々の3位。また、団体組手は準々決勝に進出。対戦相手は優勝候補筆頭の宮崎第一高校。地力に優る相手校の前に1-4で敗退となったもののベスト8、学校対抗でも5位の成績を収め、最高の成績となりました。

今回の結果について、顧問の迫教諭は「ふだんの練習の成果は出たが、上位の選手と比較すると積極性や試合の進め方など、まだ足りない部分がある。さらに努力させたい」と語っています。全国優勝に至る道のりにはまだ課題があるようです。

年を追うごとに全国制覇という栄光へと近づい



ていく空手道部女子の今回の活躍に、惜しめない拍手を送るとともに、今後の活躍に期待します。

深まる地域との交流—野辺地夏祭り参加

「のへじ祇園まつり」の山車合同運行が8月19日、20日、町中心街で行われました。時折小雨に見舞われたものの、残暑の厳しい中、生徒・職員合わせて100名余の行列となりました。山車の審査結果では見事「秀作賞」を受賞。生徒たちの喜びもひとしおでした。運行と集合を含めて3時間程（山車運びの生徒はそれ以上の時間がかかりました）の祭りの参加でしたが、参加した生徒からは「疲れたけど充実した時間だった」「また来年も参加したい」という声が多数聞かれました。

本校は「地域とのつながりを深める」という目的により6年前から山車を製作して参加しています。地域の祭りに参加することは学校を知っていただくことにもつながりますし、地域の方々と交流できる絶好の機会と捉え、取り組んできました。

山車の製作については実際、大変な手間がかかります。祭りに参加した当初は、人形や背景などの作り方の手順がのみこめず、なかなかはかどりませんでした。今では大分要領よく進められるようになってきました。

山車製作で一番苦労するのは「製作」もさることながら、『題材』を何にするかです。構図や飾り付けなど、すべて題材で決まります。知恵を絞りに絞って、今年は「桜田門外の変」となりました。

例年、6月頃からとりかかり、夏休みにはいって本格的な作業に入ります。生徒と教職員の共同作業によって進められ、お盆前には仕上げ作業に拍車がかかります。今年も猛暑が続く中、ジャージ姿と作業着姿に汗拭きタオルを首にかけ、汗だくになりながらなんとか完成に漕ぎ着けました。

野辺地町の祇園祭りは、京都祇園祭の流れをくむ夏祭りです。季節の風物詩としてはもちろん、地元の人々にとってたいへん愛着のある祭りです。



今後も地域との交流をさらに深めるため、関係者一同早速来年の企画に向け考えを巡らしている所です。

熱気球で空中散歩、いかがですか！

7月1日(土)本校の体験入学が行われました。15テーマに分かれて体験学習を進めましたが、中でも注目を集めたのが本校の特色の一つ「熱気球によるフライト体験」です。

学校のグラウンドを発着点に、その場に係留してフ

ライトするもので、参加者の皆さんには始めに模範フライトを見学したのち、数分間のフライト（試乗）をしていただきました。

参加した中学生は「初めて乗ったけど気持ちよかった」、「とても楽しかった」、「貴重な体験をしました」など短いフライトながらさまざまな感想を述べてくれました。日頃は味わえない空中散歩に歓声をあげていました。

熱気球は天候が安定し、準備がしっかりしていれば、決して危険なものではなく、気軽に体験のできる乗り物です。

本校の生徒も含めて、できるだけ多くの人達にフライト体験してもらえるように、機会をふやしていきたいと思っています。



ようこそ先輩！ 交通安全教室開催される。

光星学院野辺地工学専門学校

去る4月27日(金)本校において「交通安全教室」が開かれました。大半の学生は毎日の通学に自家用車を使用しており、日頃から交通安全には特に注意を促しております。

その指導徹底を図るために、今年はJAF(社)日本自動車連盟青森支部から講師二人をお願いし「シートベルト着用実験車両」を持ち込み、実際に学生一人一人がシートベルトを着用した時としない時の衝撃体験を実施しました。この実験車両の借用も、卒業生多数がJAFに入社し活躍していればこそと、この時は大いに感謝致しました。

講師にはJAF日本自動車連盟青森県支部から、本校平成8年3月卒業の今仁志氏(野辺地西高校出)が来校し、在校生たちに交通安全マナーや日頃の自動車点検整備の必要性や、事故の恐ろしさなどについて親切、熱心に指導いただいた。また、お話の最後には国家試験対策や就職試験に向かったのアドバイスなど在校生にとって大変有意義な交通安全教室でした。

今日一日は、本校卒業生が、JAFのような社会貢献度の高い会社で多数入社し、講師として派遣される素晴らしい先輩がいることを目の当たりにして、在校生も進路選択の参考として大変意義深い一日となりました。先輩頑張れ！我々在校生も後に続きます。



シートベルト着用実験車で体験中



本校卒業生の今仁志氏

第16回チャリティゴルフコンペ開催

学校法人光星学院チャリティゴルフコンペは8月4日、八戸カントリークラブで開催された。平成3年に始まったゴルフコンペは今年で16回目。今回も学院の各教育施設が普段お世話になっている企業や外郭団体（後援会・同窓会・父母の会）役員らを中心に約170名が参加、真夏のプレーを楽しんだ。

今年度はゴルフコンペの益金を社会福祉法人ユートピアの会（鶴飼寿栄理事長）に寄贈。コンペ終了後の8月9日、中村覺理事長が同施設を訪れ「エンジン刈払機・エンジンチェンソー」を手渡した。

なお、コンペは畑中義信様（㈱新日測量設計）が優勝した。

総合研究所だより(2)

前回は総合研究所の目指すところはなにか、その目的とするところはなにかを研究所規程に基づき3項目で示したが、読者にとってわかりやすいのは研究所の紀要であろう。研究所の紀要は研究所設立以来年一回発行されており、本研究所の研究活動を内外に示すために、定期的に発行している出版物である。この紀要については研究所に連絡いただければ入手可能である。総合研究所の設立当時は「八戸大学産業文化研究所」と言っていたため、その名称をとって紀要名を「産業文化研究」としたのであるが、施設名が総合研究所と変わっても紀要名は前のまま「産業文化研究」として継続使用している。紀要の構成を最新号で見てみると、教員によるこの地域に基づく研究論文2本、研究所の自主研究による研究成果論文3本、教員の研究資料紹介1本、その他には研究所の運営委員による研究所で実施した受託研究調査やリカレント講座、他企業との共同事業等が記録紹介されている。

今回のこの欄ではそれらについてより詳細の紹介を試みたい。

私を成長させた施設実習

～利用者の介護を通して自己を見つめたこと～

専攻科介護福祉科2年 上野 亜希子

私は1年生での1段階施設実習と、7月8日に終了した2段階の施設実習で、非言語的コミュニケーションを通して利用者の気持ちに近づく事ができ、それと同時に自分を見つめる事が出来ました。

1段階の実習では、失語症（言葉を話せない）の利用者の手を握るという非言語的コミュニケーションにより利用者の気持ちを聴き、傾聴の態度で接することが出来ました。その結果、私は利用者の気持ちを聴く事の大切さ、それを共感する事の大切さを学ぶ事が出来ました。

2段階の実習では、認知症高齢者（言葉を言うことが出来ない）利用者に笑顔で接し、出来るだけ利用者と過ごす時間を増やす事により、利用者の感情に働きかけ「快」の感情を引き出してあげる事が出来ました。その結果、利用者の感情への働きかけ方、表情や動作を観察する事の大切さを学ぶ事が出来ました。

この2つの施設実習で、私は自分が他者との間に感じていた壁がなくなり、利用者との心の距離が近くなったと考えます。この事は利用者信頼関係を築く上で重要な事であり、私も成長の助けとなりました。利用者の気持ちや感情等は非言語的コミュニケーションで70～90%が分かると言われていています。10月の3段階施設実習でも共感的態度を心がけ、質の良い介護サービスを提供出来る介護福祉士を目指して頑張りたいと考えます。



● ● ● 聖書の言葉から ● ● ●

マリアの賛歌

わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
身分の低い、この主のはしめにも
目を留めてくださったからです。
今から後、いつの世の人々もわたしを幸いな者と言うでしょう。
力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。
(ルカによる福音書1章47～49節)

暑かった夏もようやく過ぎ去りつつあります。お盆の時期、8月15日にキリスト教では、「聖母被昇天の祝日」が祝われます。「聖母」とはイエスの母マリア様のことです。「被昇天」とは、肉体も魂も共に天国にあげられたことを意味します。キリスト教では、人間は「原罪」の結果として天国から追放

された状態にあるとされています。そのため人間は欠陥のある肉体と魂をもって生き、死後天国に行く者は、新たな身体を与えられます。ただし、マリア様は特別であり、欠陥をもたない「無原罪の聖マリア」と呼ばれます。そこでマリア様は死に際して、新たな身体を与えられる必要もなく、肉体も魂もそのまま天国に行ったと考えられたわけです。この理屈は、聖書に直接由来するというよりは、古代教会の時代からの伝承と神学に基づいています。このことは、人々のマリア様に対する絶大な信仰を物語っていると言ってよいでしょう。マリア様は母であり妻でした。同じように苦楽を味わった人間ですから親近感があり、そのため人々は、神への祈りを取り次いでもらうようマリア様にお祈りするわけです。

(木鎌耕一郎＝八戸大学ビジネス学部助教授
(宗教学・キリスト教概論))

八戸初の「ストリートウェディングに参加」

八戸市商店街の初の試みに年長児・年中児が参加した。当日は、大勢の見物人に見守られ歌を披露。ストリートウェディングでは、新郎新婦をライスシャワーで保護者と一緒に祝福し式は盛会に終了。八戸市民の一員として参加することができた。



「なんだかドキドキする」と言っていた子ども達も、歌いはじめると表情が和らぎ、きれいな歌声に包まれ子どもってすごいな！

誓いのキスシーン。「エーッ！」子ども達にとっては大事件！照れながらも嬉しそうだった。

お母さんの広場「コサージュ作り」 —深まるお母さんの交流—

今年度第2回のお母さんの広場は「コサージュ作り」の開催である。いつも行事の度に協力を惜しまず園を支えてくださるお母さんたちも、この日は、自分自身のために足を運びはりきっている様子が伺われる。講師は馴染みのあるお母さんである。作業をしながら子育ての話に盛り上がる。そうしているうちに素敵な「コサージュ」の出来上がり。手軽に少し教わると出来るのでお勧め。忙しい合間の時間をやりくりしながらの集まりは、交流を深める絶好の機会。母としてだけでなく、一人の人間としての充実感を持てる良き場となっている。



子どもへの援助をモンテッソーリ教育から学ぶ



モンテッソーリ教育を始めて約30年が経過している。この間に教師から子どもに教えるだけでなく、子どもから子どもへ教える姿が定着しつつあり歴史を感じる。モンテッソーリの着眼する、子どもの中に「吸収する精神」と、「敏感期」があるという考え方は、私達教師にとって子どもの見方を大きく変えた。具体的に子どもに合わせた環境、方法を考える一人の人間として尊重することが、子どもの発達に重要だと認識された。



八戸大学サッカー部 3年連続6度目天皇杯出場

第59回NHK杯青森県サッカー選手権大会の決勝戦は8月27日(日)八戸市東運動公園陸上競技場で行われ、八戸大学サッカー部は8対1でヴァンラーレ八戸フットボールクラブを下し、3年連続6度目の天皇杯出場切符を手にした。

準決勝からの出場となった本学サッカー部は航空自衛隊三沢駐屯地サッカー部を9対0で破り決勝に進出。決勝では堂々たるプレーを披露し勝利をおさめた。

なお、天皇杯の初戦は9月17日(日)、和歌山県紀三井寺陸上競技場で和歌山県代表のチームと対戦する。皆さんの応援よろしくお願いいたします。